

【九月】 ○長月＝竹とんぼ作り。根本自治会館か消防団の詰め所を使用。製作する際は念の為「救急箱」を必ず用意し緊急時に備える事。竹を裁断する際や刃物を使う場合には「木の台」を使うと安全である。

①真竹が一番良いが、なければ孟宗竹でも良い。12cmと15cmの2つの長さに切っておく。15cmの方が軸で作12cmの幅広の方が羽根になる。ノコをで切って斧かナを削タで切り込む。



②15cmの方は幅5～6mm、12cmの方は13cm～15mmの幅で裂く。ナタがあると簡単に裂ける、小刀を当てて地面に叩きつけるようにすれば裂け目が入るので簡単に割れる。羽根には丁度中央に3～4mmの穴を明けておく。丁度中央にないとバランスが悪くて飛ばない。



③小刀を差し込む時は力を入れて、押す時には力を抜いて滑らせる。断面が三角形になるように削り出す。この業は子供には小刀などやカッターナイフ等を使用する場合は十分「ケガ」をしないよう親御さんが手伝い十分に注意する。竹の繊維は縦方向なので三角形の様に



④削る時は中心を意識しながら削る。時より左右の重さ表側ができたなら、裏も同じように削って右下の写真のように薄く仕上げる。



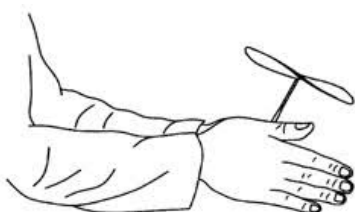
⑤裏側も同じ様に削る。右下の様に薄く仕上げる。厚さ1.5～2.0mm位で、羽根の前側（緑が少し残っている方）が厚く反対側はカミソリの歯の様に薄くと良く飛ぶ。但しあまり薄くなると欠けやすくなるので気をつける。



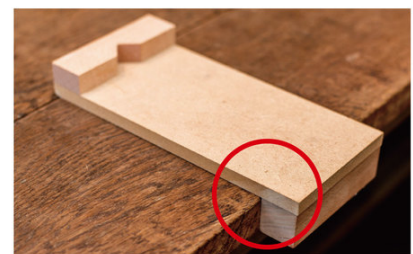
⑥羽根が完成したら軸を作る。軸は、中心に明けた穴より少し太く仕上げ、穴に挿す部分だけ細くして穴に合わせる。かなりぎつく回しながらやっと入るくらいにする。軸はあまり細いと回しにくく、太いと重さで飛びが悪くなる。軸はあまり細いと回しにくく、太いと重さで飛びが悪くなる。



⑦最後に、羽根の先端の直角になった部分が鋭いので角を落としておく。



■画像の様な木の台があると安全。竹を固定して手刀等で削る作業を行う。仕上げは紙ヤスリで磨き削る。



【治具のセッティング】

写真のようにテーブルの端に治具をすき間なく設置します。

※動かないように治具とテーブルとのすき間ができないよう注意。

※角が丸いテーブルでは使用できない場合があります。

【十月】○神無月＝お祭りに参加、國府神社

10月は「國府神社」の禮大祭であり、年間を通しての活動で参加した「子供達・親御さん」が参加する。その為に一年を通したイベント等を行う。その為にも根本會内で役割分担を決め担当者を取り決める。

■國府神社祭禮：仕切りは根本會、お手伝いは「神田明神會・他有志一同」にて、太鼓山車、中神輿で町内を練り歩く。



【祭禮詳細】

■祭禮日時：毎年10月第2週（真間稲荷神社とかぶらない様にする。）春日神社は國府神社の翌週に開催、お互い日程をずらし担ぎ手を取り合わない様にする。（真間稲荷側、春日神社側とも協議済み。）

■歳時内容：参加者リストを自治会で管理。それを元にし参加者を募る。また真間小ババの会のメンバーにも参加頂き執り行われる。地元商店街にも協力頂くがこの数年で閉店に追い込まれる最悪な状況下の中「シャッター通り商店街」と揶揄される。

そこで消防団が中心になり地域再生・町興しの手助けを行う。

入植者が増え続ける一方、地域自治会の再生を望む声は有るものの「悲嘆」の声ばかりが聞こえ、自治会運営にも陰を指す状態を打破する為にも、立場上「ニュートラル」な「消防団」が中心となり、育ち盛り・遊び盛りの子供達をメインに、その親御さんを絡めた活動を行う。

その為に「神社の祭禮」を盛り上げる「神輿・山車」の「担ぎ手、曳き手」を集め、年間行事を通じてコミュニティを作り上げる「礎・イシズエ」とする。

《御祭神》

日本武尊（ヤマトタケルのミコト）

【由緒】

景行天皇の皇子、日本武尊が東征のおり、下総の賊を平定し、この台地に陣を張る。

そして武蔵国に向かうとしたところ、下総と武蔵の台地の間には、たくさんの河川がデルタを形成していたため、舟を使わず浅瀬を渡ることはできないものかと思案する。

このとき一羽のコウノトリが現れ、尊の前にかしこまり「私が浅瀬をお教えいたしますよ、どうぞ私について来てください。」と道先案内する。尊は大軍を率いてコウノトリの後に続き、難なく武蔵国の台地に着くことができた。尊はコウノトリの功績を讃え、下総の台地をコウノトリに授けることにした。このことから、この台地がコウノトリに与えた台地、即ち「鴻之台」と呼ばれるようになったと言う。（本来は下総国府の置かれた台地であるところから国府台の名称が起った。）

國府神社はこの伝承に基づいて、御祭神を日本武尊、そして「コウノトリの嘴」を御神体として、寛治元年（1087）2月8日の創建と伝えている。一時は「鳳凰大明神」と呼ばれたこともあったが、国府に建てられた神社であるところから、國府神社と称されるようになる。境内には稲荷神社、天満神社が祀られている。市川市内でも「日本武尊」を祀る神社は他にも一社だけ存在する。（高谷の大鷲神社）

『日本書紀』では主に「日本武尊」、『古事記』では主に『倭建命（やまとたけるのみこと）』と表記される。現在では、漢字表記の場合に一般には「日本武尊」の用字が通用される。

第12代景行天皇子で、第14代仲哀天皇の父にあたる。熊襲征討・東国征討を行った日本古代史上の伝説的英雄である。

■伝説上の英雄「日本武尊」は様々な形で表されている。日本武尊は空想上とも実在したとも言われる。様々な風刺で描かれている。

